

「あおば米」の品質向上のため、コシヒカリの田植えは5月15日を中心に！

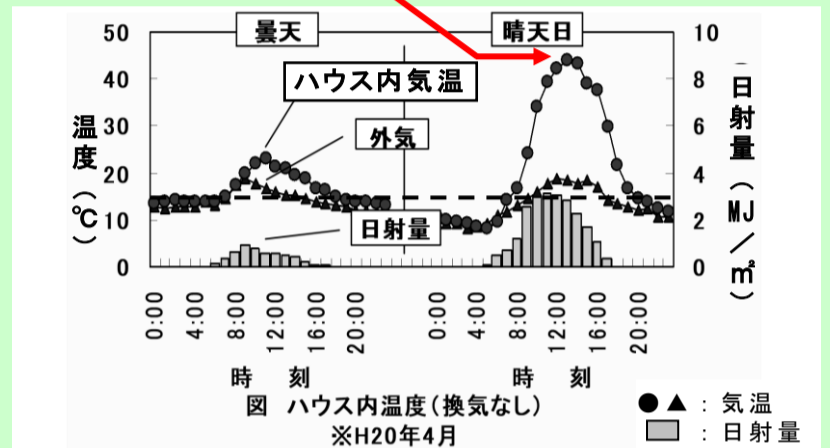
- ・苗が軟弱徒長とならないよう、育苗ハウスの換気を徹底する。
- ・田植機は70株／坪にセットし、適正な植え付けや水管理で初期分けつの発生を促す。
- ・基肥は品種や土壌条件に合わせて適正量を施用し、適正生育へ誘導する。
- ・除草剤は使用前に必ずラベルを確認し、遅れずに散布する。

1 硬化期の育苗管理

～換気を徹底し健苗育成～

- ハウス内温度が25℃を超えないよう換気を徹底する。
(特に、晴天日は早朝から換気する)
- かん水は朝1回を原則とし、床土の乾きに応じてかん水する。(かん水過多は根張りが悪くなるので注意する)
- 田植え7～10日前からは、10℃以下の低温にならない限り、昼夜ともハウスを開けて苗を外気に慣らす。
- 強風時はハウスの風下側を開けるなど、苗に直接風が当たらないよう注意して換気する。

晴天日のハウス内温度は
40℃を超える高温になる！



2 本田準備と病害虫防除

～代かきは田植えの3～5日前に行う～

- 整地の良否は稲の生育や雑草の発生(除草剤の効き方)に大きく影響するため、耕起や代かきは丁寧にを行い、田面の均平に努める。
- 代かきは田植えの3～5日前に実施する。また、代かきは少なめの水で行い、稲わらなどをすき込み、濁り水は排水路へ流さないように注意する。

JAからの購入苗は苗箱施薬済みのため、重ねて施用しないで下さい!!

<苗箱施薬>

～除草剤を苗箱に散布しないよう注意～

対象品種	主な対象病害虫	薬剤名	散布量	散布時期
全品種	いもち病、紋枯病、 白葉枯病、 イネミズゾウムシ、 イネドロオウムシ、 ニカメイチュウ、イナゴ類など	ヨーバルプライム EV箱粒剤	50g/箱 (1kgで 苗箱20枚分)	は種時(覆土前) ～ 移植当日

☆播種前に散布機を目盛を調整し、適量が散布されているか確認する。

☆育苗後の育苗ハウスで野菜を栽培する場合、薬剤散布はハウスの外に搬出してから行う。

(播種時や育苗ハウス内で散布した場合、その後ハウス内で栽培する野菜に農薬残留するおそれがあります。)

3 カメムシ対策(第2回)

～カメムシの餌となる雑草を減らす～

- カメムシが好むイネ科雑草を減らすため、除草剤の散布や畦畔等の草刈りを行う。
- 除草剤を使用する場合はザクサ液剤やバスタ液剤などの茎葉処理除草剤を田植前までに散布する。
※周辺の農用地や作物に飛散しないよう、風のない時に散布方向・範囲に注意して散布する。
- 除草剤散布をしない場合は、イネ科雑草が穂をつけないよう、こまめに草刈りを行う。

STOP! 農業機械の盗難被害!!

営農に不可欠な機械を守りましょう!!

4 田植えと水管理

～適正な「植付け」「施肥量」「水管理」で初期分けつを確保～

- **栽植密度は70株／坪**とし、**植付本数は3～4本／株**、**植付深さは3cm**に調整する。
- **基肥は、品種や土壌条件などに応じた施肥基準量^{※1}を遵守する**とともに、田植時に施肥量の確認を必ず行う。
- **活着までは5～6cm程度のやや深水**にして植え傷みを防ぐ。**活着後は3cm程度の浅水**にして、早朝に入水し、日中は止め水にして田水温を高める。

※1 JAあおば栽培こよみや予約注文書兼肥料カタログの施肥設計例等を参考にして下さい



あらかじめ田植機の設定を確認しましょう。

⇒ 株数は70株／坪にセット、掻き取り量は標準よりも「少なく」、植付深さは標準よりも「浅く」設定する。

田植え作業開始時には、目標どおりの植付となっているか確認し、田植え作業中は苗や肥料の使用量を確認しましょう。

【水管理のイメージ】

〔5日程度〕

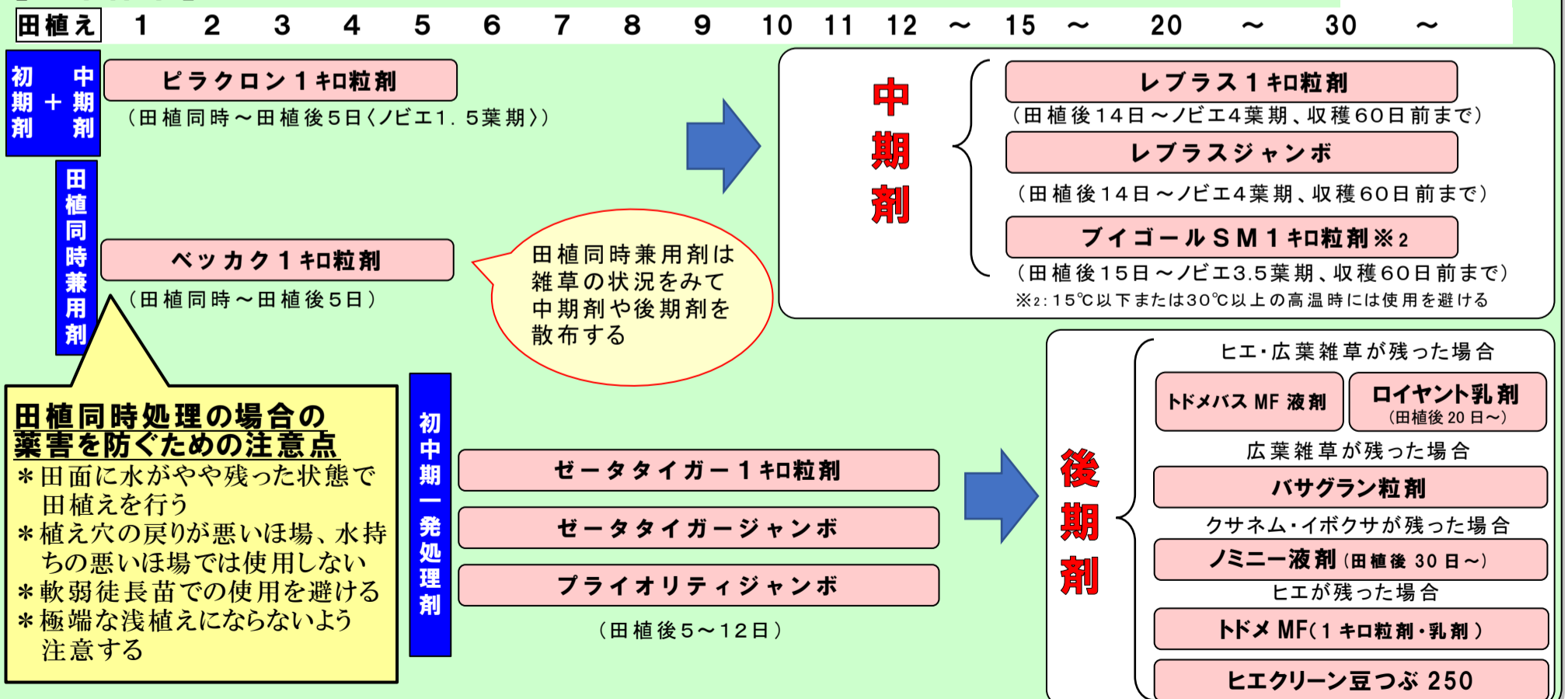


5 除草剤散布

～使用基準を遵守し、適期にムラなく均一に散布する～

- あらかじめ畦畔や排水口からの漏水の有無を確認し、漏水箇所を手直しする。
- **散布後5日間は湛水状態**を保ち、田面を露出させない。
- 河川への農薬成分の流出を防ぐため、**散布後7日間は落水やかけ流しをしない**。
- 雑草が多いほ場は、「体系処理」で除草効果をさらに高める。

【除草体系】



作業後は、忘れずに生産履歴簿へ作業内容を記入しましょう

「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」春の農作業安全運動実施中！（3/1～5/31）